

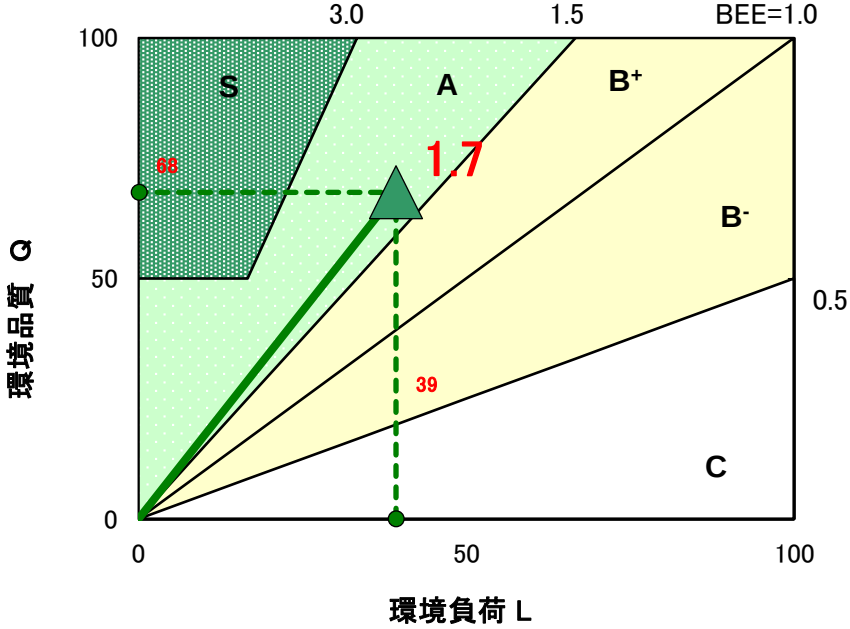
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	NTT新九品寺ビル(仮称)	階数	地上6F	
建設地	熊本県熊本市中央区九品寺1丁目2	構造	S造	
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	600 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	1,800 時間/年	
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2020年8月19日	
敷地面積	1,843 m ²	作成者		
建築面積	1,194 m ²	確認日		
延床面積	6,631 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)





BEE = 1.7

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

75%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



87

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

94.6

81.2

80.0

83.2

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

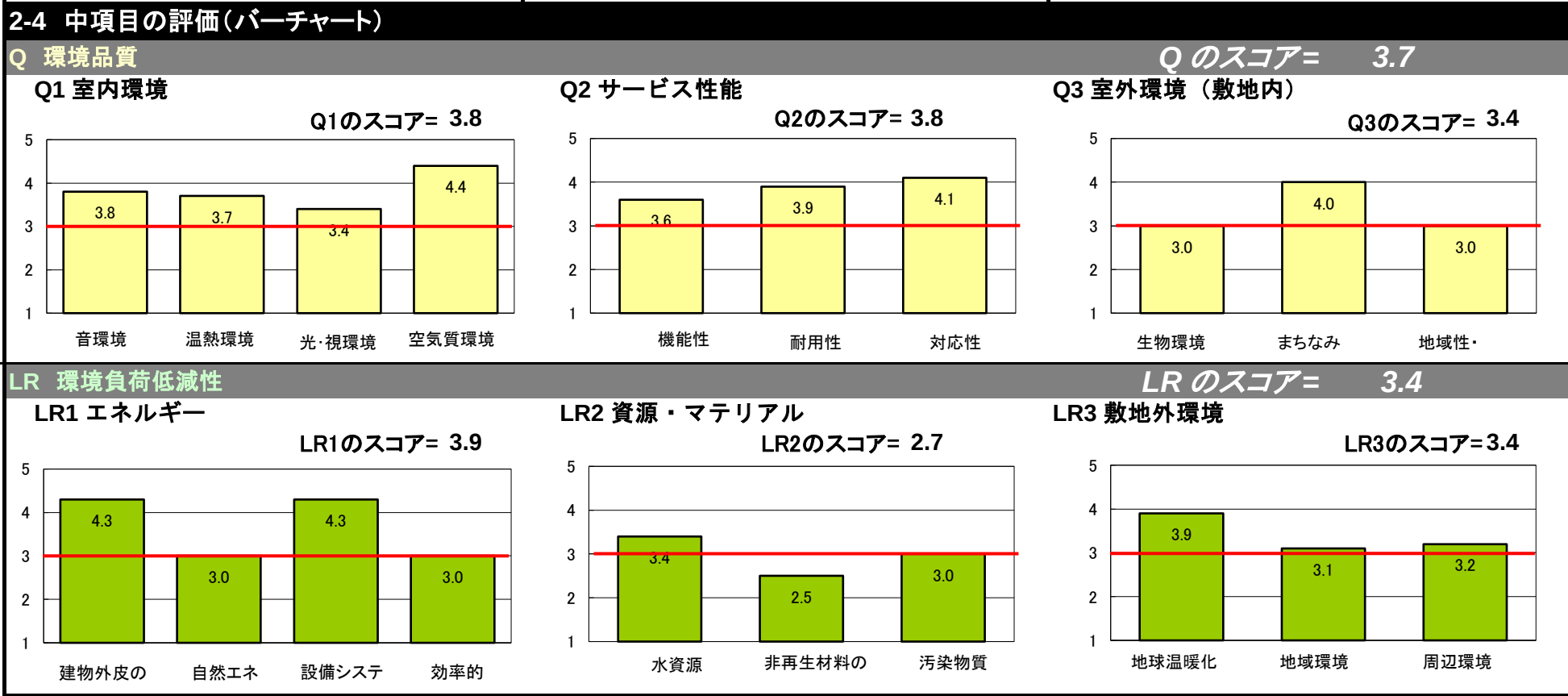
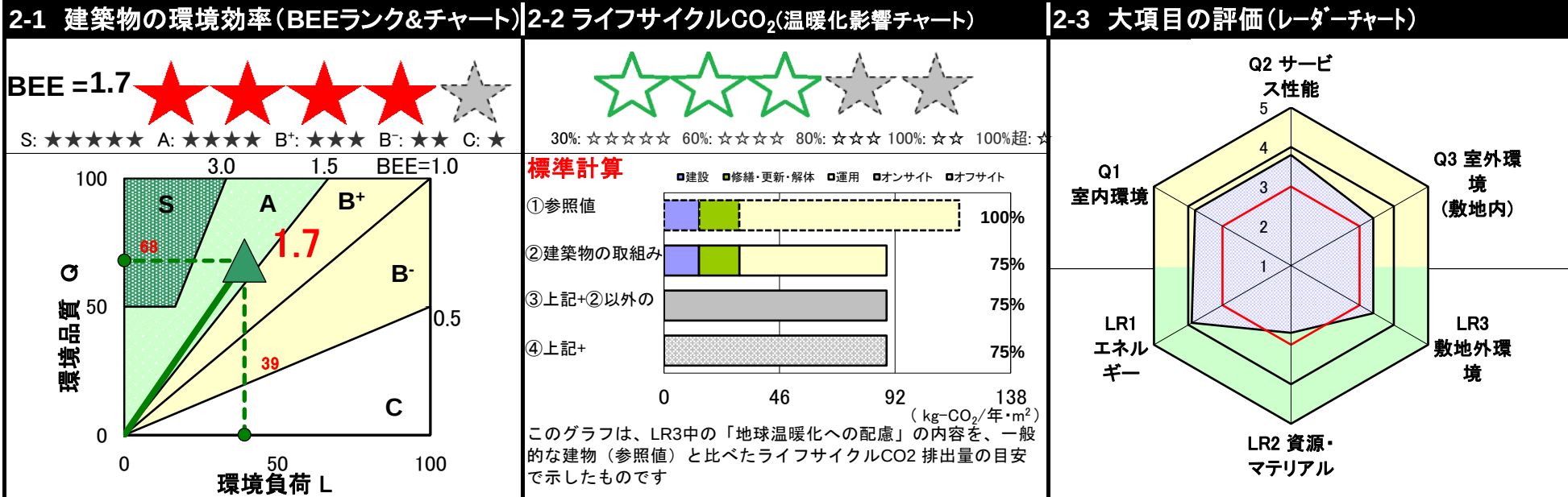
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	NTT新九品寺ビル(仮称)	階数	地上6F		
建設地	熊本県熊本市中央区九品寺1丁目2	構造	S造		
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	600 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	1,800 時間/年(想定値)		
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2020年8月19日		
敷地面積	1,843 m ²	作成者			
建築面積	1,194 m ²	確認日			
延床面積	6,631 m ²	確認者			



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
NTT新九品寺ビル(仮称)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.7	
Q1 室内環境					0.40		-	3.8	
1 音環境				3.8	0.15	-	-	3.8	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				4.6	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				5.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能				4.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.7	0.35	-	-	3.7	
2.1 室温制御				3.6	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				4.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				5.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.4	0.25	-	-	3.4	
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-		
1 昼光率				1.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				4.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				5.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				4.4	0.25	-	-	4.4	
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質				5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				4.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				4.5	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				4.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.8	
1 機能性				3.6	0.40	-	-	3.6	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				4.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33	-	-		
3 内装計画				5.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.9	0.30	-	-	3.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				4.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				4.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔				5.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				4.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				5.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				5.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			4.1	0.30	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	5.0	0.60	3.0	-	
	2	空間の形状・自由さ	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		4.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.8	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	4.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	4.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.3	0.20	-	-	4.3
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.67	4.3	0.50	-	-	4.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	4.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	4.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	3.0	0.50	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	
	3	悪臭	3.0	0.50	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

当該敷地の立地条件を把握し、自然条件や周辺環境などをふまえ、ふさわしい建物及び外構計画を行っている。
また、NTT新九品寺ビル（仮称）の計画背景を把握、今後の使われ方を想定し、将来を見越したフレキシブルな計画としている。

Q1 室内環境

日射対策や自然換気、また照明制御等を行い、快適な事務所ビルとして計画している。また、人体に無害な建築材料を用いる等、シックハウス対策も考慮しており、人にやさしい室内環境を計画している。

Q2 サービス性能

延べ床面積、階高、設備容量、P S等に対し、適切なゆとりを持つよう計画している。また、配線の更新性についても、建物に影響が極力少なく行えるように計画している。

Q3 室外環境（敷地内）

立地特性にふさわしい植栽を選定し、市電通りのまちなみにも寄与する緑地計画を行っている。また、建物には庇やピロティを設けることにより、敷地内歩行者の快適性を高めている。

LR1 エネルギー

節水の観点から省水型の機器を採用し、水資源保護に貢献している。

LR2 資源・マテリアル

特筆すべき配慮事項なし。

LR3 敷地外環境

敷地内の駐車場・駐輪場は適切な通路幅を確保するなど、安全で利用上快適な配置としている。また、建物内の外部から直接入ることが出来る位置に、ゴミの分別回収が可能なゴミ庫を設け、廃棄物処理を考慮している。

その他

特筆すべき配慮事項なし。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 NTT新九品寺ビル(仮称)

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		87
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				94.6	0.40	37.84
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.3	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.3	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				81.2	0.20	16.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				83.2	0.20	16.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	4.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数